

# 3-9

## 「私」らしい生活のために

### アセスメントと施設内コミュニケーションの秘訣

ケアマネジメント

相談員の役割

平成 20 年度生活相談員スキルアップ研修会 C グループ

浮間さくら荘 生活相談員 新村雪峰	五十嵐美紀、石川絵美、篠原希
東京都北区浮間 3-11-26	白岩直子、西田圭志、畑佐実
TEL 03-3558-5583	E-mail : sakura04@ma.kitanet.ne.jp
FAX 03-3558-7988	URL : http://www.or.jp/tokyo/about.html

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	当グループは東社協の高齢者施設福祉部会、生活相談員研修委員会が、変化に対応していく人材育成を目的とする「生活相談員スキルアップ研修会」で高い専門性や技術を身につけるために研修を行っている生活相談員7名のグループです。
----------------------------	--

#### 〈取り組んだ課題〉

○施設での生活は、どうしても施設の時間の流れに沿ったものになってしまいがちで、その枠からはみ出るようなニーズは、アセスメントされることがあまりないのではないだろうか。しかし、そのようなニーズこそが、実は「その人らしい生活」を現わすものなのではないか。

○また、「その人らしい生活」に関するアセスメントが出来たとしても、実現については更に困難なのが施設の実情ではないだろうか。その一因として、部署もしくは専門職間におけるコミュニケーションの難しさがあると考ええる。

○「その人らしい生活」=「個別ケア」の実現のために、生活相談員の専門性として何が必要かを研究する。

#### 〈具体的な取り組み〉

- C グループが考える「個別ケア」について、その定義を明確にする。その定義と、施設での実情との差を明らかにする。
- 生活相談員ならではの視点で、アセスメント方法の見直しを行う
  - ①個別ケアを実現するために必要となる、見逃されがちなニーズを情報収集出来るアセスメントシートの考案
  - ②考案したアセスメントシートを用いて行う聞き取りのポイント、ニーズの引き出し方についてチェックリスト、マニュアル等の考案

- 考案したアセスメントシート、チェックリスト等を、実際の事例で使用する。  
アセスメント結果をもとに、生活相談員の視点での個別ケアを施設で提案していく。
- 提案していく過程で、なぜ当グループが考える「個別ケア」と、施設での実情に差が生じているのか、本来の意味での個別ケアが実現に結びつきにくいのか、原因を探り、分析する。
- 原因分析の結果を踏まえ、個別ケア実現に向けて、部署や専門職間の施設内コミュニケーションの方法について研究する。相互コミュニケーションツール等の考案を行う。

#### 〈活動の成果と評価〉

- 具体的な事例に対して実践した結果、
  - ・生活相談員としての視点のアセスメントをもとに、個別ケアの提案をすることが出来た。
  - ・提案していく過程で、施設でのケアマネジメントの課題を浮き彫りにする事が出来た。
  - ・課題分析をもとに、施設内コミュニケーションの在り方について考察することが出来た

#### 〈今後の課題〉

- 今後は、考案した相互コミュニケーションツールを実践し、個別ケアの実現に取り組む。ご利用者の生活の変化、満足度等を評価していく。
- 評価をもとに、引き続き、施設ケアマネジメントの課題、障害を乗り越え、解決に導く具体的な方策を研究していく。

#### 【メモ欄】